椎の苗木通信

夢・力・花いっぱい

木城町立木城中学校
Tel　0983-32-2028
Fax　0983-32-4191

木城の明日を担う心豊かでたくましい人づくり
（木城町教育大綱の基本理念）

家庭教育学級(寄せ植え)

11 月 24 日(金)，木城中学校の技術室で木城小学校と合同の家庭教育学級を開催しました。今回は，宮崎市にある多肉植物屋の Cotyledon の方を講師として招聘し，多肉植物の寄せ植えをしました。

いろいろな多肉植物を準備され，その中から各自気に入ったものを 6，7 種類選んで，好みの鉢に寄せ植えをしました。色とりどりの多肉植物を個性溢れる作品に仕上げていました。とても有意義な時間でした。

2 年生の修学旅行

12 月 4 日(月)から 6 日(水)の 2 泊 3 日，沖縄県への修学旅行がありました。修学旅行では，民泊して各家庭の方々と触れ合う機会があったり，沖縄の観光名所に行ったり，班別自由行動があったりしました。2 年生全員が参加し，3 日間とも思い出に残る，充実した修学旅行となりました。

ところで，沖縄県には 9 つの世界遺産があります。そのうちの 1 つである首里城跡(写真)について記述します。

琉球王国の居城で，1429 年から 1879 年の廃藩置県まで琉球王国が統一しており，政治・経済・文化の中心地になっていました。

第二次世界大戦の沖縄戦で焼失しましたが，1992 年に復元されました。総木造・総漆塗りで正殿，南殿，北殿の 3 棟からなります。現在公開されているのは，首里城全体の約 3 分の 1 に過ぎませんが，大人気のスポットとなっています。

ソフトテニス大会優勝

宮崎市の県総合運動公園で 12 月 9 日(土)に開催されました，第 41 回宮崎県中学校インドアソフトテニス大会で，3 年生の松尾礼奈さん，2 年生の中武凜さんペアが優勝しました。おめでとうございます。賞状と優勝メダルが授与され，全校集会時に披露されることになっています。

校　長　雑　感

※　今回は保護者の方むけの内容です

子どもの学力を向上させる秘訣～エビデンスに基づく子育ての効果～

一昨年、『「学力」の経済学』という本が出版され、累計 30 万部を超えるベストセラーとなりました。その著者、中室牧子氏（慶應義塾大学総合政策学部准教授）の講演を聞く機会がありました。そのときの演題が上記のタイトルで、エビデンス(=evidence)とは「科学的根拠」と訳されていました。

中室氏のご専門は、教育を経済学的な手法で分析する「教育経済学」です。氏によれば、我が国では、こと教育に関しては（国家レベルの教育施策の議論においてさえも）経験で語られることが多く、また、１つの突出した事例（例えば、子ども全員を東大に合格させたお母さんの子育てなど）に目が奪われ、大衆がそれを追いかけようとする傾向に違和感を感じるということでした。これに対して海外（特に米国）では、教育の分野においても、客観的なデータを基にした研究が、日本よりも早い段階から継続的に進められてきていて、そこから分かってきたことを基に考えると、今の学校教育の在り方や、家庭で行われている子どもの教育やしつけについて、「それってどうなの？」と疑問符がついたり、「やっぱりそうだよね」と納得がいったりすることが多いということです。

講演では、国家レベルで行う教育施策も家庭で行う子育ても、データを偏りなく集めて科学的に分析し、それを根拠として進めていくのが賢明であるということを、いくつかの事例や研究成果をもとにお話をされ、私は大変興味深く拝聴しました。中室氏のお話の中から、特に印象に残ったいくつかをご紹介します。

＊子どもを将来の成功に導くためには「非認知能力」を育てることが大切

「非認知能力」とは、ＩＱや学力テストで計測される「認知能力」とは違い、「忍耐力がある」とか「社会性がある」といったような、人間の気質や性格的な特徴のようなものを指しています。

米国の研究者によると、この非認知能力が人生の成功に大きく影響するということです。これらの能力は家庭における「しつけ」や、学校や社会における、人や集団との関わりの中で身に付いていく能力であり、幼少期に身に付けることが望ましいが、教育やトレーニングによって、成人後まで伸ばし鍛えることが可能であるとされています。

この中で中室氏が最も大切としているのが「自制心」と「やり抜く力」です。これらの力を身に付けた子どもは学力も高くなり、社会に出てからも成功する確率が高いという研究結果が出ているそうです。では、これらの力を鍛え伸ばすにはどうしたらよいでしょうか？

例えば、「背筋を伸ばす」などのような、いつも意識して行わなければできないことを継続的に実行させることや、「細かく計画を立て、記録し、達成度を自分で管理する」ことを生活のいろんな場面で繰り返し行わせることによって自制心を鍛えることができます。また、「能力とは生まれつきのものではなく、努力によって後天的に伸ばすことができる」ことを信じている子どもは「やり抜く力」が強いことが分かっていることから、親や教師が定期的にこのようなメッセージを与えることで、子どもの「やり抜く力」を強め、成績の向上や将来の成功に繋げることができるというお話がありました。

＊「子どもをご褒美で釣ってはいけないのか？」に関して

「今、勉強をしておくことが、子どもの将来にプラスにはたらく」という考えから、親は「勉強しなさい」と言うわけですが、子どもにとって「将来のプラス」というのは遠くて分かりにくいご褒美と言えます。もっと近いところに、努力しだいで手に入れられそうなご褒美（目の前のにんじん）を設定することは悪いことではなく、むしろ理にかなっていると中室氏はおっしゃいました。ただ、ご褒美の設定の仕方は工夫が必要で、「成績が上がったら…」のような結果を求めるものより、「宿題が終わったら…」とか「本を１冊読み終えたら…」のように行動に対してご褒美を設定する方が効果的であるという研究結果も出ているそうです。

＊「能力をほめる」のではなく「努力をほめる」

例えば、テストの点数がよかったとき、「頭がいいね」と能力をほめるより、「よくがんばったね」と、努力をほめる方が効果があることが研究の結果分かっています。また、ほめて育てることは子どもの自尊感情を高める上で大切ですが、むやみにほめるだけだと、反省すべきときにその機会を失うことで根拠のない自信をもってしまい、かえって子どもの成長を妨げる場合もあるということです。

＊「勉強しなさい！」はエネルギーの無駄遣い

勉強するように言うだけでは、子どもの学習時間を増やすどころか、逆に減ってしまう場合もあります。「勉強の様子を横について見ている」、「勉強時間を決めて守らせている」というような親の関わりが大切であることが研究の結果から分かっています。声かけだけのお手軽な関わりからは効果は期待できないということです。また、男の子には父親の、女の子には母親の関わりが重要とされています。